

鹿骨松本小学校
保護者各位

江戸川区立鹿骨松本小学校
校長 渡邊 浩輔

令和7年度 鹿骨松本小学校 学校経営方針

1 教育目標

令和7年4月、鹿骨小学校と松本小学校が統合し、「鹿骨松本小学校」が誕生しました。

新たな学校での生活はどの児童にとっても不安があり、統合初年度はよりきめ細かな指導が必要だと考えています。また、児童にとっては不安だけでなく、新たな挑戦の機会が多く得られる大切な1年にもなります。

そこで、令和7年度の教育目標を以下の通りとし、鹿骨松本小学校が児童にとって「楽しく、安心して学べる場所」と思える環境づくりをしていきます。

<鹿骨松本小学校 教育目標>

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 児童に身に付けさせたい力

○よく考える子

- ・自分の気持ちや考えを伝え、相手の話をしっかり聞く力
- ・自分で考え、行動する力
- ・困難があっても自ら考え、前向きに取り組む力

○思いやりのある子

- ・環境や友人関係の変化に対して柔軟に考え、受け入れる力
- ・新しい友達や先生と積極的に関わる力
- ・お互いの違いを認め合い、尊重、協力する力

○たくましい子

- ・新しい学校のルールや雰囲気慣れ、前向きに適応する力
- ・新しい環境での生活リズムを整え、自己管理する力
- ・失敗を恐れず、新しいことに挑戦する力

3 教育目標達成に向けた基本方針

- (1) 確かな学力の育成
- (2) 豊かな心の育成
- (3) 健やかな身体の育成
- (4) 健全育成の推進
- (5) 特別支援教育の推進

(6) 家庭・地域との連携・協働の推進

(7) その他

4 具体的な取組

(1) 確かな学力の育成

- ・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」に基づく組織的な取組を行います。
- ・習熟度別指導（全学年算数）、教科担任制によるきめ細やかな指導を行います。
- ・一人1台端末を活用した授業を推進します。
- ・ドリルパークや「よむYOMUワークシート」を活用した朝学習や家庭学習の充実を図ります。
- ・「江戸川っ子study week!」による家庭への働きかけを強化します。
- ・中学年からのEDOスク（放課後学習教室）を実施します。
- ・東京ベーシックドリル、区学力定着度調査、区学力調査、全国学力・学習状況調査等の結果を基にした個人カルテを活用し、教員の授業改善を進めます。
- ・学校図書館及び江戸川区中央図書館を活用した「江戸川っ子読書科コンクール」の取組を充実させます。
- ・授業規律の徹底を図り、落ち着いた学習環境づくりを推進します。
- ・ALTを活用した異文化理解及びコミュニケーション能力の育成を図ります。

(2) 豊かな心の育成

- ・地域資源を活かした活動や伝統芸能や音楽の鑑賞、学校行事や当番活動など、体験活動を重視した活動の充実を図ります。
- ・なかよし班（異学年交流）を中心として全児童がヤギ飼育にかかわるなど、自他を含めたすべての生き物の「命を大切にする」教育を実践します。
- ・自然や文化体験として、5年でウインタースクール、6年で日光移動教室を実施します。
- ・江戸川区や鹿骨・松本に関わる人材を招き、地域を大切に作る心を育成します。
- ・多様な考え方や生き方を知り、様々な人とともに生きる態度や心を育成します。
- ・学年の一体感、作品を作り出す喜び、豊かな情操を培うため、学習発表会を実施します。
- ・道徳授業地区公開講座及び意見交換会を実施します。

(3) 健やかな身体の育成

- ・週1回全校での「なわ跳びチャレンジ」の取組、学期に1回「江戸川っ子なわ跳びチャレンジウィーク」を実施します。
- ・定期健康診断での保健指導や歯みがき指導を実施します。
- ・食育を推進し、栄養士による食育指導、マナー給食、バイキング給食等を実施します。
- ・全教職員でアレルギーに対する理解を深め、事故防止を徹底します。

(4) 健全育成の推進

- ・「鹿骨松本小のきまり」を共通理解し、学校生活が安全に楽しく送ることができる教育活動を展開します。

- ・多様な文化、生き方、価値観を尊重し、多様な人と共に生きる態度、心の醸成を図るため、学びのユニバーサルデザインを推進します。
- ・情報モラルの育成を進めるとともに、家庭と連携し適切な使用方法について共有していきます。
- ・「Hot Project」を推進し、魅力ある温かな学校づくり、エンカレッジルームを活用した居場所づくりを推進します。
- ・学習用タブレットを活用した心の健康診断(L-Gate)を毎日実施します。
- ・不登校等対策委員会を常設し、個に応じた対応を強化します。
- ・学校いじめ対策委員会を核として、ふれあい月間の実施、お手紙箱の設置等、組織的かつ確実な対応を実施していきます。
- ・教科担任制（理科、社会、家庭科、音楽、図画工作等）を取り入れ、複数の教員によるきめ細やかな対応を行っていきます。

（5）特別支援教育の推進

- ・個別支援計画を基に校内委員会を設置し、組織的、計画的な支援を行います。
- ・特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、巡回指導教員、特別支援教室専門員など多様な人材を活用し、発達障害支援センター、児童相談所等支援機関とも連携します。
- ・エンカレッジルームを常設し、校内別室指導支援員を配置することで、不登校を未然に防止するとともに個別最適な学びを支援していきます。

（6）家庭・地域との連携・協働の推進

- ・地域を愛する心を育むために、地域とかかわる学習を積極的に実施します。
- ・「農の風景育成地区」としての地の利を生かした学習を推進します。
- ・近隣中学校との連携を深め、児童・生徒交流及び教員の授業改善を目的とした授業交流を進めます。
- ・多彩な人材を招聘し、児童の興味・関心・意欲を高める教育活動を展開します。
- ・家庭との連携を深めるため、保護者会や個人面談、学校公開等を実施します。
- ・学校ホームページや連絡アプリ「tetoru」を充実させていきます。
- ・PTAや学校応援団、学校評議員等との連携を進めていきます。

（7）その他

- ・学校関係者評価や各行事の保護者アンケートなどから、家庭・地域の率直な意見を受け止め、校内組織のPDCAサイクルを充実させて、教育課程の改善・充実を図ります。
- ・開校に関わる取組を充実させ、各教科や特別活動等の学習活動を工夫し、愛校心、新しい友人とのかかわり、地域のよさを題材とした教育活動を展開し、感謝と敬愛の念を育てます。

5 統合に伴い、児童が安心して生活するための指導の重点

児童が安心して新しい環境で生活できるよう、教職員が以下の点を重視していきます。

(1) 安心・安全な環境づくり

- ・児童一人ひとりの不安や悩みに寄り添います。
- ・学校のルールや新しい生活習慣を分かりやすく指導します。
- ・いじめや孤立を防ぐための関係づくりをします。

(2) 児童同士の交流と信頼関係の構築

- ・交流を深めるレクリエーションやグループ活動を実施します。
- ・学年やクラスを超えた協力体験の場を設けます。

(3) コミュニケーション能力の育成

- ・相手の話を聞くことの大切さや、思いやりのある言葉の使い方を指導します。
- ・児童が自分の気持ちを表現しやすい場を作ります。

(4) 児童の自己肯定感を高める指導

- ・「できたこと」や「頑張ったこと」を積極的に認めていきます。
- ・小さな成功体験を積み重ね、自信をもたせます。

(5) 地域や保護者との連携

- ・保護者の不安を和らげるための情報発信や相談の場を設けます。
- ・地域の特性を活かし、新しい学校の魅力を創造します。